

令和元年度 松阪商業高校マネジメントシート

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒・教職員が「誇り」をもち、保護者・地域から「信頼」される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	自己指導能力(そのとき、その場で、どのような行動が適切であるか、自分で判断し、決定して実行する能力)を持った生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> * 生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を目指した改善を進め、進路希望実現のための学力保障ができる教職員 * 共通認識を基盤として個々の特性を活かした連携が図れ、生徒に寄り添ったきめ細かい指導ができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> * 充実した学校生活とクラブ活動の活性化、進路希望の実現を望んでいる。</p> <p><保護者> * 生徒が安全安心な高校生活を送るとともに、進路希望の実現を期待している。</p> <p><地域> * 生徒の公共心とマナーが育成され、専門学科としての専門性や特色を生かして地域の活性化に貢献してほしいと期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> * 安全・安心な教育環境と心身ともに健康な生徒の育成 * 進路希望を実現のための支援 * 迅速な学校教育活動等の情報提供</p> <p><中学校> * 全教職員レベルの学力面、生徒指導面での中高の連携 * 外国人生徒の指導のための一層の連携</p> <p><地域社会> * 関係機関、事業所との連携・協力の推進 * 挨拶・身だしなみ等の学校評価ポイントの指導推進 * 学校教育活動等の情報発信</p>	<p><家庭> * 本校教育方針への理解と協力、家庭での基本的な生活習慣の教育</p> <p><中学校> * 基礎学力の向上、継続的な指導のための個々の生徒の情報共有</p> <p><地域社会> * 本校の専門性や特色を理解したうえでの生徒の活躍の場の提供</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○「学習時間調査」、「授業アンケート」が全クラスで実施されていない。授業改善のために、全クラスで実施し、学校全体で授業改善に取り組んでいく。</p> <p>○ホームページのリニューアルなど多様なツールを用いて情報発信に取り組むことができた。更なる情報発信に取り組んでいく。</p> <p>○平成30年度の地域社会との連携について、SBP（ソーシャル・ビジネス・プロジェクト）の取組では、「ギフトセット（JKギフト）」を作り上げ、松阪市のふるさと納税の返礼品になるなど、地域社会との連携が進んだ。また、ギター部や吹奏楽部も、施設で演奏会を開催するなど、可能な範囲で地域貢献に取り組んでいる。次年度は更なる地域社会との連携発展を目指して、地域社会との取組を進める。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> * 単位制高校としての利点を生かし、少人数や習熟度講座を編成し、学習者へのきめ細かな指導を行い、希望進路の実現を図っている。 * 普通科志向の風潮の中、専門学科が敬遠され、募集定数の確保が難しい学科もある。学科の特色や強みを生かした教育活動を展開し、地域に魅力を発信することが大切である。 * 専門教科に比べ、一般教科の学力定着・向上に課題がある。生徒が基礎基本の学力の定着を図ることができるよう、家庭学習など自律的に学習する習慣を身につけることが重要である。 * 商業や英語関係の高度な資格取得に積極的に取組、大きな実績を上げている。 * 「三重県いじめ防止条例」に基づき、いじめの防止及び早期発見に努め、生徒が望ましい人権意識をもち、安全・安心な学校生活を送ることができるよう学校全体で取り組む必要がある。 * 国際教養科における海外研修旅行を充実するとともに、グローバル教育を推進するため、国際交流の機会を拡充する必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> * 商業教育の拠点校として、高い専門性を有した教職員が配置され、スペシャリストを育成するノウハウを備えている。 * 伝統ある地域の商業高校として、地元産業界等と強いネットワークで結ばれている。 * 生徒が落ち着きを取り戻し、学習活動や部活動、挨拶を始めとする礼儀や身なりなど地域からも一定の評価を受けるようになってきている。今後も一層、生徒の社会的自立に向け基本的生活習慣や社会性を身につけさせる取組を向上させる必要がある。 * 生徒の持てる力を一層伸ばすため、教職員相互の授業研究を行うなど授業改善の取組を推進することが求められる。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> * 生徒の「自己指導能力」の向上を図る。 * 基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀を身につけた心身ともに健康な生徒を育成する。 * 「命の尊さ」や「いじめ防止」を様々な機会や方法を用いて繰り返して伝えていく。 * 生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を目指した授業改善を推進する。（「授業アンケート」結果等の活用） * 高校生としての学力保障と自己実現に向けた生徒自身による進路決定意識を養う。 * 学校の魅力化・特色化として高度な資格（商業・英語）取得を進め、資格を活かせる進路指導を行う。 * グローバル教育推進のための海外研修旅行や国際交流の充実を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> * 外部関係機関との連携による教育活動展開を進め、実社会でビジネスを学ぶ場を創出する。 * 学校の教育活動の情報発信をさらに充実させてゆく。 * 「信頼される学校であるための行動計画（松阪商業高校）」に基づいた取り組みを遵守する。 * 教職員の総勤務時間の縮減等による働きやすい職場環境づくりを推進する。（ ）内はH30年度の数値 <ul style="list-style-type: none"> ・月80時間を超える時間外労働者の年間の延べ人数を昨年比 年30%以上削減（61人/年） ・時間外労働時間の総平均を昨年比 月6%以上削減（19.2時間/月） ・個人年休取得日数を昨年比 年0.5日以上増加（平均15.0日/年） ・定時退校日を月1日実施し、退校できる職員の割合85%以上（82.8%） ・部活動休養日を週1日設定し、休養日が取れる部活動の割合100%（*100%） ・放課後に開催され、60分以内に終了する会議の割合70%以上（未測定） * 質の高い教育を目指すために教職員の研修機会を確保する。

	<p>授業のさらなる改善に活用する。</p> <p>【活動指標】 (1) 授業アンケート実施率 100%を目標とする。</p> <p>【成果目標】 (1) 「授業の理解度」の肯定意見を 80%以上、「質問ができる雰囲気」の肯定意見を 70%以上にする。</p>	<p>授業の理解度は 86.7%の肯定的意見であった。</p> <p>質問ができる雰囲気は 80%であった。</p>	
<p>進路希望の実現(3年生)</p> <p>将来の進路への意識の向上(1、2年生)</p>	<p>(1)積極的に企業訪問を行い、企業情報を生徒に的確に伝える。</p> <p>(2)職員全体での面接指導を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>(3) 進路内定後、校長面談、進路講話を実施し、社会人になることへの自覚・意識の向上につなげる。</p> <p>(1) 外部講師等を活用した進路講話・ガイダンスを実施する。</p> <p>(2) 進路に関わる情報を的確に発信する。</p>	<p>・多くの生徒が希望に沿った企業に内定、学校に合格した。</p> <p>(1) 求人票発送前に企業訪問を行い、情報を収集、学年団と共有した。</p> <p>(2) 適宜面接指導を行い、企業・学校の面接試験の対策指導を行った。</p> <p>(3) 学年団を中心に卒業後の心構えについて指導した。1 月に外部講師を招き、講話を行い、意識向上に努めた。</p> <p>・基礎学力向上の取り組みとして、実力テストの成績不振者に対して課題を与えるなどの指導を行った。</p> <p>(1) 外部講師や企業、学校を招き、進路講話・ガイダンスを行い、進路意識の向上を図った。</p> <p>(2) 就職・進学先の情報等、進路選択に有用な情報を提供した。</p>	
<p>生徒指導の充実</p>	<p>丁寧な頭髪服装指導や全校集会の実施や、登校・下校・校外指導を実施により、自発的な「見た目」向上の意識付けを図る。</p> <p>【活動指標】 (1) 頭髪服装指導日までに十分な準備のできる生徒、日ごろから端正な頭髪服装を心がける生徒を増やすため、啓発に力を入れる(講話・通信等)。</p> <p>【成果指標】 (1) 頭髪服装指導における不合格生徒の数を、昨年度よりも 20%減を目指す。</p>	<p>・頭髪指導までに、準備が出来るようになり、適切な行動が出来る生徒が増えた。</p> <p>・制服の着こなしも、学校内はもちろん、校外でも正しく着こなせており、学校のイメージを変えることが出来た。</p>	
<p>生徒会活動の充実</p>	<p>(1) 生徒主体で生徒会行事・企画を運営していく。</p> <p>(2) クラブ活動の活性化に取り組む。</p> <p>(3) 自転車ツーロック運動・環境に関する活動の活性化に取り組む。</p> <p>(4) 主権者教育に取り組む。</p>	<p>(1) 各行事とも生徒主体で運営することが出来た。アンケート結果も良好であった。</p> <p>(2) 各クラブが活発な活動を行った。東海大会・全国大会出場を果たした。</p> <p>(3) 生徒指導部と連携して行うことが出来た。</p> <p>(4) 松阪市選挙管理委員会の協力を得</p>	

	<p>(5) ボランティア活動に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 生徒が主体で各行事(体育祭・文化祭・クラスマッチ・壮行会等)を運営し、すべての生徒が楽しんで思い出に残るような行事を計画・実行し、行事ごとにアンケートを実施する。</p> <p>(2) 生徒会誌「松籟」等で部活動成績等の紹介を行う。</p> <p>(3) 自転車啓蒙活動(ツーロック・交通安全を含めた活動)を行う。</p> <p>(4) 地域に貢献する活動を行う(ボランティア活動)。</p> <p>(5) 主権者教育の一環として、松阪市選挙管理委員会協力の下、生徒会役員選挙を実物の機材で行い、「選挙」に対する意識付けを行う(模擬投票や学習会の企画)。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) アンケート等を活用し、修正等を行う。</p> <p>(2) 自転車交通ルール of 徹底・管理及び乗車マナーの意識調査を実施する。安全教育の推進を図る。</p>	<p>て選挙を行った。</p> <p>(5) 今年度は生徒会付近の清掃をすることどまった。</p>	
<p>保健指導の充実</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と健康への理解を深め、疾病の予防に努めさせる。</p> <p>(2) 心の自己管理能力を高めさせ、望ましい人間関係を維持できるように努めさせる。</p> <p>(3) 男女の特性や多様化する性への理解を深めさせる。</p> <p>(4) 学校生活を安全に健康に過ごせるよう環境美化に努めさせる。</p>	<p>(1) 生活習慣による健康管理と負傷後の対処について理解を促すことが出来た。</p> <p>(2) 心身の発達に合せた性教育講演会を実施、より深い理解へとつなげることが出来た。</p> <p>(3) 2・3年生対象の「性教育講演会」を行った。</p> <p>(4) 概ね実施できた。</p>	
<p>人権教育の推進</p>	<p>(1) 周囲にある課題に気づき、人権意識を持って自ら自立した行動のできる生徒を育成する。</p> <p>(2) 人権教育推進計画に基づき、HR 活動や教科学習、講演会などにおいて人権尊重の精神を培う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 生徒による「人権室だより(通信)」の発行等により、人権学習の定着を図る。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 通信の発行年間5回。</p>	<p>・通信発行総数14回 (生徒向け13回・教員向け1回)</p>	

<p>図書館利用教育</p>	<p>(1) 学校図書館の利用の意義を理解し、またマナーの習得等、生涯教育の場となる公共図書館等の利用につながるような基礎的知識の習得を目指す。</p> <p>(2) クラス生徒への働きかけのきっかけとなるように、図書委員会活動を活性化させ、親しみやすい学校図書館を目指す。</p> <p>【活動指標】 (1) マナー指導や図書委員会による「図書館通信」の発行展示等を行う。</p> <p>【成果指標】 (1) 図書館利用にあたってのマナー指導(随時)を行う。 (2) 図書委員会による「図書館通信」を発行(年5回程度)する。</p>	<p>(1) 1学年全クラスに対して、クラス別に図書館オリエンテーションを行い、図書館利用の意義やマナーなどを指導した。</p> <p>(2) 図書委員会活動として、ショーウィンドウ展示をほぼ毎月、図書館通信を年5回発行した。また、学年別ビブリオバトルや文化祭企画を行った。</p>	<p>◎</p> <p>※</p>
<p>「教育課程・学習指導」、「キャリア教育」 (情報ビジネス科)</p>	<p>(1) 1年生に無理なく簿記基礎知識を習得させ、簿記嫌いを作らない。</p> <p>(2) 専門学校との高専連携を活用し、範囲が増えた日商簿記検定合格者増加を目指す。</p> <p>(3) ビジネス文書検定や珠算・電卓検定等幅広い科目で上位級の合格者を増やし、より商業科目の習得に自信を持たせる。</p> <p>(4) 地域から必要とされる商業高校を目指し、企業や業界団体との連携を一層深め、学校のみならず企業や地域で学ぶ機会を増やすことで、実践的なビジネス教育を目指す。</p>	<p>・人口減少に伴い次年度より情報ビジネス科が1クラス減となり、規模の縮小と内容の充実が危惧されるなか、小委員会を中心に教育課程の検討や学科の方向性について調査、研究、検討した。</p>	
<p>「教育課程・学習指導」、「キャリア教育」 (情報システム科)</p>	<p>(1) 情報技術に関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかり、高度な資格試験合格を目指す。</p> <p>(2) 学習した知識を生かすため外部教育力を導入するなど生徒のスキルアップに努める。</p>	<p>(1) 情報処理技術者試験に多数の生徒が合格することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用情報技術者 3名 ・基本情報技術者 10名 ・ITパスポート 4名 <p>(2) 専門学校の講師による講習会を実施し、生徒の情報活用能力を高めた。</p>	
<p>キャリア教育 (国際教養科)</p>	<p>(1) 実用英語技能検定の資格取得やGTECのスコアを有効活用し、進路選択の一助にするため、授業改善に取り組み(授業見学や先進校視察等も含む)、課外授業や個別指導においても積極的に生徒の支援を行う。</p> <p>(2) 本校生徒が地域の小学校に出向き、英語指導行うことにより、児童たちに「英語学習の楽しさ」を教えるとともに、英語を学ぶ楽しさを共有する。</p>	<p>(1) 英語検定等の各種検定対策や大学等の入試対策については、国際教養科のすべての生徒に対して、面接指導や放課後の補講などを通して支援を行うことができた。3年次生徒47.2%が実用英語技能検定2級以上に合格。内2名が準1級合格。</p> <p>(2) 小学校での英語活動をとおして、「英語学習の楽しさ」を小学生と共有すると共に、担当教員との研究協議を昨年度より増やすなどして連携を深めることができた。</p>	

改善課題改善課題・次年度に向けた改善策

- 生徒会
 - ・生徒主体で各行事を進めていくことが、さらに出来るように取り組んでいく。
- 人権教育部
 - ・より効果的な人権教育のための内容、方法の追求及びLHRの事前事後の指導を充実させる。
- 図書部
 - ・生徒の日常に図書館があるとは言えない状況のため、利用率を高めるための手段を引き続き考えていきたい。
- 情報ビジネス科
 - ・情報ビジネス科の1クラス減の対応と新学習指導要領の施行への対応に向けて、学習内容の検討とカリキュラムの見直しを総括的に検討していく。
 - ・商業教育について調査研究を進め、教育課程の作成および今後のあるべき姿について検討していく。
- 国際教養科
 - ・新たな入試制度に向け、取得を目指す資格や課外授業・個別指導の内容について検討していく。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
総務業務の円滑化	(1) 業務分担の明確化および業務のスケジュール化を図り、進捗管理を行う。 (2) 分掌、学年、教科、事務と密接な連携を図り、共通理解のもと、円滑な学校運営の推進に努める。 (3) PTA総会、PTA役員会、研修旅行等を通じて、PTAとの密接な連携を図る。	・総務部での進捗管理は概ね出来た。 (3) 体育祭、VIVA松商、文化祭、研修旅行等を通じて連携を図ることが出来た。	
学校教育活動の広報	(1) オープンスクール、学校説明会、授業公開を実施する。 (2) 学校紹介パンフレットを作成し、中学生に本校での学習や部活動について知ってもらう。 (3) 学校ホームページをリニューアルして、広報活動の充実を図る。また、ホームページの更新を随時進め、最新の情報提供を行う。 (4) 携帯メール配信システムを有効活用し、緊急連絡網としての機能を維持するとともに、本校教育活動の広報に活用する。	(2) 学校パンフレットについて、今年度さらに見やすく改良した。 (3) 各クラブの情報更新や月別の行事予定等情報提供に努めた。 (4) 絆ネットを活用することにより学校からの連絡を保護者に周知することが出来た。	
授業改善の取組	授業ノウハウの共有 【目標】 (1) 教員が授業の工夫や授業改善を公開、その工夫や改善方法を共有する。	・授業改善の取り組みの参加率は84.9%であった。	

	<p>【取組内容】</p> <p>(1) 年度初めにすべての教員が、授業改善のための工夫、アイデアを一つ以上設定し、授業改善設定シートに記入する。改善の工夫は新規に行うものだけでなく、すでに行っていることの継続でも可とする。また、複数で担当する場合は共同での設定も可とし、年度途中の設定も可とする。</p> <p>(2) 授業改善設定シートはデータベースに登録し、全教員で共有する。</p> <p>(3) 授業で実施する。</p> <p>(4) 年度末に自己評価し授業改善評価シートに記入する。結果をデータベースに登録し、ノウハウを共有する。</p> <p>(5) 次年度は新たな改善策を設定するか、自身の改善策を改良するか、あるいは共有された改善策を利用する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>設定された改善の工夫に対して、年度末の自己評価で、次の3点がすべて評価される。</p> <p>(1) 実施の状況（出来た。、できなかった、途中で中止した）</p> <p>(2) 成果の有無（効果があった、効果がなかった）</p> <p>(3) 改善策の分類（継続、棄却、修正継続）</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 教員による上記の自己評価のうち②については、生徒による授業評価など担当者が実施してもよい。</p>		
<p>教職員全体で進路指導に取り組む体制をつくる。</p> <p>保護者への情報発信を充実させる。</p>	<p>(1) 職員全体での面接指導を計画的に行う。</p> <p>(2) 課外授業を計画し、受験生徒の支援を行う。</p> <p>(1) 入学式後に保護者への進路説明を行う。</p> <p>(2) 総務部と連携し、PTA総会后に保護者対象の進路ガイダンスを実施する。</p> <p>(3) 進路だよりを定期的に発行する。</p>	<p>(1)年度前半に教員全体で面接指導を行った。</p> <p>(2)夏休みに課外授業期間を設定し、学力の向上に取り組んだ。</p> <p>(1)予定通り実施した。</p> <p>(2)就職、進学希望別に実施した。</p>	
<p>生徒指導における組織力向上</p>	<p>(1) 生徒指導におけるチームワーク力の向上。</p> <p>(2) 頭髪服装、交通マナー、アルバイトなどの指導において情報共有し、共通認識を持って生徒に対応する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 生徒指導、学年団との情報共有の場を作る。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(2) 問題のある生徒への共通認識を持ち、教員全体の組織力の向上を成果指標とする。</p>	<p>・職員会議・臨時職員会議や朝の打ち合わせの場で、生徒の指導案件を報告し、生徒の様子や状態を情報共有してもらった。その上で、全職員で、共通理解のもとで、生徒指導にあたることが出来た。</p>	
<p>生徒会と保護者・地域との取組</p>	<p>VIVA松商を実施し、PTA役員・総務部・生徒会顧問・生徒会執行部役員が集結し、松商の学校生活等について協議する。</p>	<p>・VIVA 松商で5項目について検討を行った。</p> <p>① 1棟3階のドアクローザーを修理する</p>	

	<p>【活動指標】</p> <p>(1) V I V A松商を1学期の期末テスト中に実施し、情報を共有し、学校活性化につなげていく。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) V I V A松商に2つ以上提案する。</p>	<p>ことが出来た。</p> <p>② 体育祭の日除けとしてテント購入をすることが出来た。</p> <p>③ その他の項目についても、引き続き検討している。</p>	
保健部の活動	<p>(1) 生徒の気持ちに寄り添い、望ましい学校生活を送れるように支援する。</p> <p>(2) 特別支援の必要な生徒の情報共有と支援活動を行う。</p> <p>(3) 保健に関する情報提供と健康増進のための情報を発信する。</p> <p>(4) 健康診断と救急処置及び日常的な保健指導を行う。</p> <p>(5) 心身の健康教育と、教育相談による心のケアを充実させる。</p> <p>(6) 校内の環境美化活動とごみの分別を徹底する。</p>	<p>(1)相談しやすい環境を保つことが出来た。</p> <p>(2)必要に応じて関係する分掌や機関等と連携し支援の幅が広がった。</p> <p>(3)保健委員会による保健便りの発行や文化祭での企画展示により、情報の発信をすることが出来た。</p> <p>(4)ごみの分別方法の変更により必要に応じて周知、意識づけを行った。</p>	
人権教育研修	<p>(1) 教職員の人権意識を高めるため、現職教育の開催や校外研修への積極的な参加を促進する。</p> <p>(2) 様々な課題を持った生徒の情報を共有し、ケーススタディにおいて教職員の人権意識を高め、生徒に必要なサポートができる体制作りを行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 現職教育において外国籍生徒の指導について研修を行う。</p> <p>(2) 人権教育部と保健部とのタイアップによる生徒の情報共有会議を開催する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 早期の現職教育実施</p> <p>(2) 情報共有会議の定期的な開催</p>	<p>・現職教育年3回</p> <p>① 外国人生徒の指導</p> <p>② LGBTについて</p> <p>③ 聴覚に障がいのある生徒への配慮について</p> <p>・情報共有会議2回</p>	
学校図書館の情報提供	<p>(1) 各教科との連携を密にし、アクティブラーニング活動につながる教育支援の充実に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 図書館利用につながる案内とサービス（資料提供、レファレンスサービス）を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 必要に応じた案内とサービス（随時）を行う。</p>	<p>・年度初めに職員向けの「図書館利用案内」(授業利用支援のご案内等)を配布し、図書館資料を活用した教育支援を随時、教科担当者との連携のもと行った。</p>	◎

資質向上の 取り組み (情報ビジネス科)	<p>(1) 1年生に無理なく「簿記」の基礎知識を習得させ、「簿記」嫌いを作らない。</p> <p>(2) 専門学校との高専連携を活用し、新範囲が増えた日商簿記検定合格者の増加を目指す。</p> <p>(3) ビジネス文書検定や珠算・電卓検定等幅広い科目で上位級の合格者を増やし、より商業科目の習得に自信を持たせる。</p> <p>(4) 地域から必要とされる商業高校を目指し、企業や業界団体との連携を一層深め、学校のみならず企業や地域で学ぶ機会を増やすことで、実践的なビジネス教育を目指す。</p>	<p>(1) 初学の簿記について担当者のきめ細やかな指導と補習を実施した。 しかし、日商簿記3級の受験指導の時期に学級閉鎖に伴う授業時間が十分に確保できなかったが、担当者が放課後を活用しフォローアップができた。</p> <p>(2) 高専連携については、希望者や部活動を中心に実施した。</p> <p>(3) 上位旧の合格については、全商1級3種目以上合格の生徒が昨年度の15名から42名に飛躍的に増加した。(情報システム科を含む。)</p> <p>(4) SBP活動を中心に企業連携を図れた。</p>	
「保護者・地域住民等との連携」 (情報ビジネス科)	<p>(1) 各種検定・国家試験等の日程や計画を明確にすることで、保護者と連携した教育活動をおこなう環境づくりに努める。</p> <p>(2) 小中学校や大学・専門学校との連携により、生徒に幅広い教育機会を与える。</p> <p>(3) 地域企業や市町、商工会議所等との連携により、地域で学ぶ機会を与える。</p>	<p>・生徒への検定日程は示しているものの保護者に対する情報が不十分であったが、ホームページを活用し情報提供を行うとともに、入学時の説明会でも共通理解を深める努力をした。 また、SBP活動で観光協会との協力を得て滋賀県立八幡商業高校との交流を実施し、セレクトギフトが松阪市のふるさと納税返礼品に2年連続で採用していただいた。</p>	
「保護者・地域住民等との連携」 (情報システム科)	<p>(1) 各種検定・国家試験等の日程や計画を明確にすることで、保護者と連携した教育活動をおこなう環境づくりに努める。</p> <p>(2) 小中学校や大学・専門学校との連携により、生徒に幅広い教育機会を与える。</p>	<p>(1) 学校ホームページにて、検定試験の日程を保護者や生徒がいつでも確認できる環境を整備し、保護者の方も日程を知っていただくことで連携を強化した。</p> <p>(2) ・高専連携により、高校だけでなく専門学校での学びを体験させることで学校外での積極的な学びの場を提供した。 ・地元掃水小学校の6年生に情報システム科の生徒がプログラミングの授業を行った。</p>	
組織力の向上 (国際教養科)	<p>(1) 国際教養科在籍生徒の学力向上の組織構築および情報共有のため、国際教養科委員会を定例化する。</p> <p>(2) 英語科及び他教科との連携を図りながら、公開授業や先進校視察等を実施し、授業改善に取り組む。また、教員の資質向上に取り組む。</p>	<p>(1) 2回開催した。</p> <p>(2) 英語科内においては、各科目で連携して授業を行うことができた。また、国際教養科担当教員による他校の公開授業への参加などから、本校の授業改善に取り組むことが出来た。</p>	

改善課題・次年度に向けた改善策

□総務部

- ・授業公開の参加者が今年度は、保護者3名、中学校保護者6名であった。保護者へは絆ネットを活用して周知したが、参加者が少ないため、今後はより積極的に情報発信していく。

□生徒指導部

- ・平素から学年主任や担任や分掌とのコミュニケーションを大切にし、生徒の情報を共有出来るよう更に努める。

□生徒会

- ・V I V A松商などを通して、更なる学校の改善に努める。
- ・生徒が生徒会行事等を通して、さまざまな場面で活動出来るように、更なる環境整備に努める。

□人権教育部

- ・情報共有会議の有効な活用と連携方法を構築していく。

□図書部

- ・予算のなかで、他館からの借り受けうまく利用し教育活動支援を行う必要があり、継続して基本的な蔵書を自館で少しずつ揃えていく。

□情報ビジネス科・情報システム科

- ・地域から求められる商業高校として、地域との関わりをさらに進めて行きたい。
- ・検定試験の合格指導については一定の成果が上がってきた、今後も継続して資格取得指導の充実と発展を目標とする。

□国際教養科

- ・進学希望者の中には、必要な基礎学力を十分に身につけていない生徒も多いため、これまで以上に英語の科目以外の教科とも連携を密にし、進路指導を行う。

5 学校関係者評価

明らかなった改善課題と次への取組方向	<p>定数減と定員割れへの対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生への説明をより一層丁寧に行う。 ・保護者へのアプローチを大切にした広報活動を行う。 <p>授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答率がアップしてきているが、引き続き100%を目指す。 ・生徒自身のためのものであることを理解させる。
--------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> * グローカル教育の推進を目指して国際交流や地域交流の内容を充実する。 * 学科の特色や強みを生かした教育活動を展開して地域に魅力を発信する。 * 授業内容を活かした資格取得に取組み就職や進学に活かしていく。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> * 伝統ある地域の商業高校として地元産業界等との連携を進める。 * 基本的な生活習慣や社会性を身につけさせる取組を更に向上させる。 * 教職員の授業研究や授業改善の取組を推進する。